



## 光のファンタジー 白岩城址燈火祭

白岩城址や前郷通り、本町通りに1,000個以上のかがり火を灯し、幻想的な光の世界を演出する「白岩城址燈火祭」(主催:白岩村おこしプロジェクトS・代表 下田三千雄)が2月9日、角館町白岩平城を主会場に開催されました。

白岩城址にかがり火が灯される中、主会場では元気白岩ひでこ節大会や綱引き大会、火振りかまくら、花火打ち上げなどが行われ、集まった子どもから大人までみんなが盛り上がり白岩の冬のイベントを楽しんでいました。

## 無病息災を願い「節分祭」

邪気を追い払い、一年の無病息災を願う「節分祭」が立春の前日、2月3日に角館町の神明社で行われました。

神明社の氏子や33歳、42歳の厄祓い、後厄を終えた代表、還暦の方々の代表などが「福は内」「鬼は外」の掛け声とともに豆や紅白餅、お菓子などをまくと、境内に集まった約200人の人たちが福を呼び込もうと一斉に手を伸ばし無我夢中で豆や餅をひろい集めていました。

また、会場一角に設けられたテントでは、仙北市商工会、角館町観光協会により温かい甘酒等が振る舞われ、参加者からは冷えた体が暖まると喜ばれていました。



## 「角館の保存会、仁井田の火振りを視察」

角館の火振りかまくら保存会(会長・中村六郎)では、1月15日夜、秋田市仁井田地区の小正月行事「火振りかまくら」を視察交流しました。県南の小正月行事は、おおよそ2月に集中して行われますが、1か月早い仁井田の火振りかまくらを是非見たいとの会員の希望で、このたび13人の参加で視察をしました。

御野場中学校そばの田んぼでは、神事に続き、稲わらで造られた大きな「屋組」に点火されると、会場のあちこちで、火の付いたわら束を回し、集まった地域の人たちは、幻想的な炎の競演を楽しんでいました。

同地区では、昭和26年から中断していましたが、平成2年の市制施行百周年を機に復活させたということで地区振興会の意気込みには感服しました。角館会場には、毎年振興会の人たちが来てくれています。保存会では、今後も交流を続けたいと話していました。



角館の火振りかまくら保存会の皆さん

## お年寄りから子どもまで参加し第2回どんど焼き



2月17日、かたくりの里・にぎやか委員会主催の「第2回どんど焼き」が、かたくり館前の田んぼで開催され、地域のみなさんなど60人が参加しました。

このどんど焼きでは「集落のみんなが今年も元気でありますように」と、地元安楽寺の和尚さんから拝んでいただき、高く積み上げた薪に点火。一斉に燃え上がる火の粉に歓声が上がったほか、手作りの紙風船3個が夜空に舞い上がると、会場からは拍手がわき起こりました。

また、100個ほどの小さな雪灯籠のともし火の幻想的な会場で、もちつきや宝さがしなどが行われ、お年寄りから子どもまで一緒に楽しみました。